

9月26日(木) 17時30分 - 18時30分 DD会場

代表：澤田安樹(京大低温センター)

副代表：加藤岳生(東大物性研)

運営委員：

(2012年10月-2013年9月)

鈴浦 秀勝(北大)、横山 毅人(東工大)、青木 伸之(千葉大)

(2013年4月-2014年3月)

植田 暁子(筑波大) 望月 敏光(東大物性研) 寺澤 大樹(兵庫医科大)

【報告事項】(澤田安樹)

1 プログラム小委員会

・シンポジウム・招待講演は全て採択された。

2 領域名の略称問題

・前回同様であり、審議継続となった。

【審議事項】

1 新運営委員の紹介・次期運営委員の決定

・新運営委員として中西 毅(産総研)、赤堀 誠志(北陸先端大)、佐藤 宇史(東北大)が紹介され、出席していた赤堀、佐藤両氏から挨拶があった。

・次期運営委員として、大塚 朋廣(理研)、高瀬 恵子(NTT 物性基礎研)、山本 夕可(北大)が現委員(植田、寺澤、望月)からそれぞれ推薦され、承認された。それぞれから挨拶があった。

2 プログラム編成作業について

2-1 運営委員の専門領域について

赤堀さんの専門は量子ドットではなく、半導体とする。プログラム編成の際により広く半導体に関わる領域を扱う。

2-2 ソートファイルについて

申し込み順に打ち出された講演シートを講演順にソートしてカバーシートを一番上に乗せる作業が編成会議であるが、予め講演順に打ち出すための依頼用ファイルを出しておけば当日非常に楽になる。

2-3 編成リーダーについて

運営委員のうち、割り当ての少なく、首都圏在住組の人がリーダーとして全体を見渡してカバーファイルを作ることとする。作業時間は1週間無いのでなるべく予め決めておく。

2-4 まとめファイルについて

現状カバーシート、ソートファイルと別にまとめファイルを作っている。重複講演を避け、座長の会員番号を調べるためのものだが、様式が学会から送られて来るファイルと違うため作業が重い。複数講演者の情報は別途学会から送られてくるし、座長の番号は現地で素早く検索出来る。次回の編成時に様式やまとめファイルの有無について考える。

2-5 シンポジウムについて

企画講演 2 件と招待講演 1 件。200 名の収容人数でも足りない程の盛況であった。トポロジカルでシンポジウムをやる場合、観客数 400 を想定して場所を取りに行くと良い。

2-6 領域 7 との合同セッションについて

次回以降も継続する。キーワード「グラフェン」を選んだ講演は領域 4、7 とともに合同セッションに入れる。セッションは 4 つ、主領域は折半。

2-7 クラウドサーバーの利用について

今回の経験からメリット、デメリット両方あった。クラウド利用のプログラム作成は選択肢としておいておき、その時の運営委員の方で利用するかどうか相談して決めれば良い。

(メリット) ファイルサーバーとしてとても便利。

(デメリットと対策) 作業時の最新版の確認が問題になった。

まとめファイルを作る前に、リーダーが各人に作業終了の確認を ML で問うと良い。

3 キーワードについて

- 「その他」の後に「シリセン」が来ているので、校正の時に注意する。
- 「ワイル半金属」を半年後の変更機会(1年後の学会から適用)に第 3 キーワードに入れる。
- 「ダイカルコゲナイド」を第 3 キーワードに入れるかを、次回編成の後に忘れずに議論する。

4 春の学会の企画講演等について

-次回は招待講演、企画講演およびチュートリアル講演を企画する。

招待講演について：寺澤より新田 淳作氏(東北大)による半導体スピントロニクスについての講演が提案され、議論された。講演 45 分、想定聴衆 400 名。最終日を避ける。好田 誠氏により同様の内容の講演がなされたかどうかチェックする必要がある。

植田より岩佐 義宏氏(東大)によるダイカルコゲナイドについての講演が提案された。シンポジウムでの講演内容を勘案して、本人への依頼をし提案書を作成する。

チュートリアル講演：植田より藤本 聡氏(京大)に、マヨラナフェルミオンについての講演が提案され、議論された。佐藤氏との招待講演と近い分野であるが、初学者向けの内容として差別化する。講演時間を 60 分に延長できるかを交渉する。

企画講演：寺澤より野村 健太郎氏(東北大金研)によるワイル半金属についての講演が提案された。ややチュートリアル的な内容として、本人への依頼をし、提案書を作成する。

5 若手奨励賞について

-募集方法の変更について

郵送による応募を廃止しメールによる応募に一本化することが議論され、承認された。本件は細則の変更なので学会とのやりとりが必要ないかもしれない。

-重複不可の規定について

若手奨励賞の重複不可の規定は領域 8 独自の規定であり、領域 4 として新たに重複不可の規定を設けない。

6 メーリングリスト管理について

-新運営委員のホームページ管理者は後で相談（後日中西に決定）。

-領域 HP サーバー移転については物理学会からの連絡を受けてから決める。

7 領域略称名について

領域略称名についての経緯が説明された。領域 4 としては「半導体・メゾ(系)」を略称名の案として維持する。英語の略称名を考える必要が今後あるかもしれない。

8 領域運営委員予算について

運営委員が会議を独自に行うための予算については、領域 4 は使わない。

以上

文責・望月敏光